

特集 大学生による座談会

テーマ 「私の幸せ・あなたの幸せ」 ～男女共同参画を考える～

- 1. 男女共同参画、女性活躍について ～「男は仕事、女は家庭」どう思う？～
- 2. 幸せについて思うこと ～どんな時幸せ？ 幸せになるために心がけていることは？～

今回は、足利大学看護学部の学生と男女共同参画に関する座談会を行いました。皆それぞれに率直な考えや意見を述べてくれました。

テーマ① 男女共同参画、女性活躍について

Q1 「男は仕事、女は家庭」という言葉についてどう思うか？

小 昔前はそうだったと思う。自分が志す看護の職場は女性が多く、男女は平等。子供が生まれたらすると状況が変わるのかもしれないが、現在は対応しにくい。「主夫」という言葉は、ワーク・ライフ・バランスによって生まれたと思う。社会の意識も変化しているのではないかと。

伊 自分は社会の中で一生涯、働き続けていきたいと考えている。自分の家庭では父親が家事を手伝っている。

海 実家は自営業で、両親とも同じ仕事をしている。男性でも家事ができる時間があるので、積極的に手伝うべきだと考えている。

川 自営業をしている母親の姿を見て、自立して生きていけるように看護師を目指して勉強している。男性も育児休暇が取れるようになっており、女性が働き続ける環境は整ってきていると思う。

宮 以前は「看護婦」だったが、今は「看護師」と変わり、女性のみを指す言葉ではなくなった。選択肢が広がっている。勿論、女性が活躍できる場も広がっていると思う。

和 母親は専業主婦だが、自身は結婚してからも働き続けたと考えている。

Q2 家庭事情を離れ第三者として見た場合、現在の「男女平等」についてどう思うか？

小 男女の特性はそれぞれあり、性別に適した仕事があると思う。また個人個人それぞれ違うので、すべて同じではないと考える。

宮 性別としての差はあると思うので、それを区別するのは良い。例えば、子供は女性しか産めないが、育児などのフォローは男性でもできる。

伊 男性でも女性でも得手不得手があると思う。お互いが話し合いながら分担することが重要なのではないか。

Q3 「イクメン」という言葉についてどう思うか？仮に将来、看護師同士で結婚したらどうなると思うか？

小 そういう言葉が生まれることは、社会的概念が変化したからではないか。女性の負担を減らし、社会的に男性が家事をすることに役立つと思う。お互いに、話し合いながら仕事と両立させていきたい。

川 仕事と家庭生活は両立させるべきで、同じ仕事なら理解し合えると思う。

伊 勤務時間帯がすれ違うなど難しい面があるかも知れないが、研修を通じて相手の様子に「気づくこと」の大切さを学んだ。これを活かして、素直な話し合いができる環境をつくるのが大事だと思う。

テーマ② 幸せについて思うこと

Q1 どんな時が幸せだと感じるか？

伊 日々実習や試験に追われているが、友人との食事などでリフレッシュできた時幸せだと感じる。

海 趣味に没頭している時。また、実習などで上手にできた時。

川 実習などで「ありがとう」と感謝の言葉をかけられた時幸せに感じる。

小 何事も目標を達成できた時かな。

和 健康でいられ、家族との時間が持てる時が幸せ。

Q2 幸せになるために心がけていることは？

宮 笑顔でいること。

和 嬉しいと感じたら素直に喜びを表現すること。

小 実習の中で接する患者さんに「今日も会えるんだ、嬉しいな」という意識をもつように心がけている。

いろいろな意見ありがとっさぎにありました！みんな立派な看護師になってください！(T・K、H・G)



性別で決めつけるのは偏見だと思う。でも、男性がした方が良い仕事と女性がした方が良い仕事があるのでは。

私も長く働きたい！女性が働きやすい環境になりつつある。

私は働いていきたい。家庭によって異なるけれど協力が必要です。

女性でも仕事と家庭は両立させたい。

男は仕事、女は家庭という考え方は変えていくべき！性差はどうにもならないが、役割分担をすれば良い！

仕事は男女同じ。女性は結婚すると家庭が加わるので男性が助けるべき。できないことは話し合って決めれば良い！